

2025 年度
横浜みどりアップ計画
実績報告書【巻末資料】



横浜みどりアップ計画の評価・提案

横浜みどりアップ計画市民推進会議 2025 年度報告書

案

【抜粋】

横浜みどりアップ計画市民推進会議

2026 年〇月

目 次

1 はじめに	1
2 横浜みどりアップ計画市民推進会議について.....	○
3 市民推進会議 2024～2025 年度の活動実績.....	○
(1) 活動の概要	
(2) 活動の詳細内容	
ア 市民推進会議(全体会議)	
イ 施策別専門部会	
ウ 広報・見える化部会	
エ 調査部会(現地調査)	
4 横浜みどりアップ計画の評価・提案.....	○
◆計画の体系	
(1) 柱1 市民とともに次世代につなぐ森を育む	○
施策1 まとまりのある樹林地の保全・活用	
(2) 柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる.....	○
施策1 農に親しむ取組の推進	
施策2 「横浜農場」の展開による地産地消の推進	
(3) 柱3 市民が実感できる緑や花をつくる.....	○
施策1 市民が実感できる緑や花の創出・育成	
施策2 ガーデンシティ横浜の更なる推進	
(4) 効果的な広報の展開	○
市民の理解を広げる広報の展開	
(5) その他事項に対する評価・提案.....	○
5 市民推進会議委員名簿.....	○
6 市民推進会議委員からのコメント.....	○
7 広報・見える化部会からの情報提供.....	○

(3)

柱3 市民が実感できる緑や花をつくる

街の魅力を高め、賑わいづくりにつながる緑や花、市民が実感できる緑の創出。また、地域で緑を創出・継承する市民や事業者の取組を支援。

施策1

市民が実感できる緑や花の創出・育成

事業① まちなかでの緑の創出・育成

- (1) シンボリックな緑の創出・育成
- (2) 街路樹による良好な景観づくり
- (3) 公開性のある緑空間の創出支援
- (4) 建築物緑化保全契約の締結
- (5) 名木古木の保存

2025 年度実績報告書 関連ページ



- 取組の評価・検証
p.〇～p.〇
- 各区の実績
p.〇～p.〇

◆ 施策1についての評価・提案

事業①について

街路樹による良好な景観づくりについて

・都市樹木には木陰の憩いの場など、非常に重要な役割もあります。また健全な樹木を育てるためには維持管理が重要です。横浜市は全国のフロントランナーとして、「健全な樹木の育成が大事である」ということを、積極的に発信してほしいと思います。

事業② 緑や花があふれる地域づくり

- (1) 地域緑のまちづくり
- (2) 地域に根差した緑や花の楽しみづくり
- (3) 人生記念樹の配布

事業③ 子どもを育む空間での緑の創出・育成

- (1) 保育園・幼稚園・小中学校での緑の創出・育成

事業④ 緑や花による魅力・賑わいの創出・育成

- (1) 都心臨海部等の緑花による魅力ある空間づくり

2025 年度実績報告書 関連ページ



- 取組の評価・検証
p.〇～p.〇
- 各区の実績
p.〇～p.〇

◆ 施策2についての評価・提案

事業②について

地域緑のまちづくりについて

- ・「地域緑のまちづくり」のような制度を町内会は重要視しています。必要な人たちに情報が届くように地域へのきめ細かな周知が必要であると感じています。
- ・地域でボランティア活動をしていると、専門家のアドバイスが欲しいという声をよく聞くため、「アドバイザー派遣」は非常に良い制度だと思います。こうした制度も、市民や民間の方が利用しやすいように、もっと広報に力を入れてもらいたいと思います。

人生記念樹の配布について

- ・子育て世代に届くように、情報流通を非常に丁寧に構築し、実行していただいたと感じています。今後、小学校入学前の最もニーズが高い層に効果的に情報を届けるにはどうしたらよいかという点も検証していければよいのではないかと思います。

事業③について

保育園・幼稚園・小中学校での緑の創出・育成について

- ・夏の暑さが厳しくなる中、学校関係者や保護者の維持管理の負担を軽減するために、保育園・幼稚園、小中学校などにスプリンクラーや灌水装置を設置してはどうかと思います。
- ・ビオトープの整備等の際には、学校関係者が生物多様性や横浜の自然について学べる機会を充実するとよいのではないのでしょうか。

事業④について

- ・
- ・

「緑をつくる」施策を検討する部会 部会長コメント

.....

竹内 智子



実績報告書について

- ・地域は住民のニーズにこたえる形で動いています。そのためみどりアップ計画の実績についても、取組によって、地域に体験の場が広がったり、学校教育にもつながったりするなど、地域が実際にどのように活性化したのか、地域へどんな寄与があったのかといった波及効果について示すことにより、事業への評価がさらに高まるのではないかと思います。

市民の関わりの向上について

- ・緑の取組は学校だけでなく、地域へのアプローチも丁寧に行っていく必要があります。あわせてホームページや情報発信を分かりやすくできれば、活用できる人も増えるのではないかと思います。そのことが満足度向上にもつながると思います。
- ・横浜市の所有する土地や施設と、活動したい学生とをつなぐ仕組みがあれば、若者を緑づくりの現場に引き込むことができると思います。緑の取組は数多くあると思いますが、場所を作るだけでなく、活用したい人とならぐ取組も増やしていただけたらいいのではないかと感じました。
- ・みどりアップ計画の3つの柱はいずれも、単にハードを整備するだけではなく、「農を感じる」、「実感できる緑・花」、「森を育む」という、関わりを前提としたものです。そういう意味では、今後はより多くの市民がより多様な関わり方ができる施策を強化していく必要があると思います。それは広報だけではなく、例えばコーディネーター派遣のように、事業展開の中で関わりが生まれる仕組みを増やしていくことが重要だと思います。
- ・一度みどりに関心を持ってくれた人たちが、その後どうやって緑に関わり続けるのかといった点が重要だと思います。現状では、緑の維持管理活動や学習など、比較的深い活動が中心ですが、「維持管理まではいかなければ、少し体験してみたい」という層に向けた裾野を広げる事業が増えると、継続的に関わる方も増えるのではないかと思います。
- ・「木が1、2本あるだけで生まれる木陰」や、そこに置かれた居心地の良いベンチ、あるいは、ミストなどを使った涼しさの演出といった小さな工夫が、これからは必要だと思います。こうした小さな工夫によって、整備した場所がこれからも市民に愛される場所であり続けることが大切だと感じています。
- ・私たち17名の委員も、みどりアップ計画のアンバサダーのような立場で積極的にPRをしていきたいと思っています。

横浜グリーンエキスポについて

- ・地域で花づくりを行っていることに加え、林地や農地があり、農業も盛んであり、街路樹の整備にさまざまな工夫がされているなど、横浜グリーンエキスポは横浜市の多様な緑の取組を紹介できる機会でもあります。ホームページやパンフレット等で、「横浜市はこれまで長く、こんな施策を実施してきたから園芸博を開催する」という情報を発信し、海外の方に里山などにも足を運んでもらい、これまでのみどりアップ計画による実績を見てもらえるような工夫が必要だと思います。

維持管理について

- ・今後、植栽する樹種についても、高温や乾燥に強い種類やグラス類などの導入を検討する必要があると感じています。また、維持管理に関わる作業員の安全確保も重要です。草刈りロボットの活用や作業時間の見直しなど、働き方そのものを先進的に考えていくことが求められているのではないかと思います。

6 市民推進会議委員からのコメント

市民推進会議の委員を務めてきたなかで感じたことや、生活の中で、みどりについて日ごろ感じたことについて、委員からのコメントです。

〇〇委員コメント

委員の皆さまにコメントをいただきます





横浜みどりアップ 葉っぴー